

源水麗水 源水麗水 小説家、紀行文作家。慶應二年十一月二十七日駿河

國生れ、昭和十七年八月二十三日歿（六六―九四）。本名金太郎。別

號古道齋、顔廬の主人。松柏、液仙、紫液仙、踏液仙、麗水生、麗水逸

生等。菊池松軒の迎敵塾公學ぶ。同門、幸田露伴。小學校教員等を経

て、明治二十二年報知社入社。二十七年都新聞社に轉じ、社會部長等

を務めて昭和十二年編輯顧問を辭す。後年は紀行文を専らとした。

著書 『離れ鶯・潮類』（麗水生名、中村花渡） 明治二十四年八月

二十日吉岡書齋店「新著百種」（『第二國民小説』（合著、明治二十

六年六月一日民友社）、『學園花壇』（合著、明治二十七年一月）

『白春陽堂』、『菅相丞』（明治二十

七年一月十八日博文館「少年文學」）、

鈴木華邨畫作『白清戦争繪卷・第一

（京城之巻）』（説明、明治二十八年

一月）『白春陽堂』、『半月城』（麗

水生名、明治二十八年二月二十日春陽堂）、『きんぎょ時雨』（同、明

治二十九年七月十三日春陽堂）、『大平洋』（明治二十年一月）『金

櫻堂』、『杜鵑一聲』（明治二十年七月二十七日博文館「袖珍小説」）、

『山田長政』（明治二十二年四月二十日博文館「少年讀本」）、『由縁

源氏』（麗水生名、明治二十二年七月一日金積堂）、『白菊御殿・後

編』（明治二十四年二月十四日金積堂）、『男女學生氣質（附錄學生消夏

法）』（合著、新八公論社）高島大圓編、明治二十九年二月二十九日鶴

聲堂書店・井瀨堂）、『こころの視』（明治二十九年八月二十日八日左

久良書房）、『金剛杖』（合著、明治四十年九月十日春陽堂）、『山



水洪養臣（大正二年五月十八日春陽堂）、  
 『文鏡秘府論』（大正四年七月十五日大阪  
 春陽堂）、左右田信一郎著『支那行遊記録』（校訂、大正十二年十一月二十七日神奈川・左右田信一郎刊）、『新入野記』（大正十五年十二月五日大阪産覧書店）、  
 『南洋の遊び』（昭和二年五月十日大阪  
 産覧書店）、『曲水流觴』（合著、昭和四年二月曲水主人刊）等。

